

## エゾウコギについて

問 最近、健康によいということからエゾウコギが話題になっていますが、この樹木の天然分布と特性、漢方薬としての利用、増殖法についてお知らせ下さい。（札幌市 M生）

答 天然分布と特性：エゾウコギは、北海道の東北部（主に十勝，網走地方）に天然分布しています。植物分類上では、漢方薬として名高い朝鮮人参と同じ仲間です。この樹木は、沢の中腹など排水のよい肥沃地に自生する樹高2～3mの低木で、葉は柄の長さ約3～7cm、掌状複葉（手の形）で5枚の小葉をもち、幹枝には下向きの細かい刺が密生します。7～8月頃、散形状の白い花が咲き、9～10月頃、球形（直径5～6mm）の黒い果実（液果）がみのります。

漢方薬としての利用：道立衛生研究所の分析結果によると、ビタミン、ミネラルの含有量は、葉、木部、根の順となっています。葉の採取適期は7～8月ころで、採取後10日間ほど陰干しして、手でもみほぐします。幹枝は、10月から翌年の3月にかけて刈取り、2cmくらいに切断し、室内で2週間以上乾燥させ、いずれも煎じます。また、根は煎じて用いますが、一般には、蒸溜酒につけて液が琥珀色になったころ飲用します。葉効は広範囲におよびますが、主に、動脈硬化、制ガン、コレステロールの減少、心臓病、糖尿病などの予防、治療に効果があります。

苗木の増殖方法：苗木の増殖は、まきつけ、さしき、根ざし（分根）などで行います。果実1個には、長さ5～6mm、半月形の種子が5～6粒入っています。精選は果実を手でもんで果肉を水洗除去し、5～7日間室内で乾燥します。1g当りの粒数は230粒、まきつけ量38g/m<sup>2</sup>、発芽率約45%、発芽は多年型で、まきつけ翌年36%、翌々年64%、とりまき、春まきとも同じ傾向がみられます。発芽数390本/m<sup>2</sup>、得苗数200本/m<sup>2</sup>、秋には平均苗高が5cmに生長します。

さしきは、用土に鹿沼土、火山砂を用います。緑枝ざしよりも休眠枝ざし（赤ざし）の方がよく発根します。さしほの採取適期は2～3月、充実した前年伸長枝を選んで切取り、雪中埋蔵します。5月中旬ころ貯蔵した枝を12～15cmの長さに切り、基部を斜めに削り切返しをつけます。さしつけは150本/m<sup>2</sup>前後、直射日光を遮るため、さしき床を寒冷紗で覆い、適宜かん水すると約70%以上発根します。また緑枝ざしは、7月中旬ころ、当年伸長枝を採取し、さしほの長さは15～20cm、基部は節の直下で切ります。この際、さしほの長さの下方1/3（さしつけ部分）にある葉を取り除きますが、上方2/3ある葉は長さの1/2を切り落します。さしつけは100本/m<sup>2</sup>前後、以後の管理は休眠枝の場合と同じ方法で行うと35%以上発根します。

根ざし（分根）は、4～5月ころ自生木を丁寧に掘り起し、太さ約5mm以上の根を選び、長さ10～15cmに切って下方を斜めに削ります。そしてよく耕うんし、有機質肥料を十分に施した畑地に垂直もしくは斜めに埋め込むと、50～60日で不定芽が発生します。発芽率は約75%、秋には平均苗高が8cmに生長します。（樹芸樹木科 斎藤 晶）